

平成24年1月教育委員会会議（定例会）会議録

- 1 日 時 平成24年1月25日（水）午後4時00分～午後5時09分
- 2 場 所 所沢市立新所沢公民館 学習室6号
- 3 出席者 [委員] 富田常世委員長、守谷靖委員長職務代理者、京谷圭子委員、吉本理委員、佐藤徳一教育長
[事務局] 山寄裕司教育総務部長、平塚俊夫学校教育部長、藤田晃教育総務部次長、江田宏樹学校教育部次長兼学校教育課長、田中文雄教育施設担当参事兼教育施設課長、則武辰夫社会教育担当参事兼社会教育課長、金子美也子生涯学習担当参事兼生涯学習推進センター所長、中村藤司保健給食担当参事兼保健給食課長、北健志教育総務課長、関口恭一スポーツ振興課長、鈴木正行文化財保護課長、斉藤雅裕所沢図書館長、齋藤敏男教育センター所長、岸健次教育総務課主幹兼教育企画室長、山口勝彦学校教育課教育指導担当主幹兼健やか輝き支援室長
[書記] 大部稔之教育総務課主査、皆川博幸教育総務課主査

4 前回会議録の承認

5 会議の傍聴者 別添のとおり（1名）

6 開 会 本日の議案は、議案第39号の1件。

7 議 題

- 議案第39号 所沢市立公民館設置及び管理条例の一部を改正する条例制定について

資料に則り、則武社会教育担当参事兼社会教育課長から説明がなされた。

以下、質疑。

（吉本委員）

公民館運営審議会の委員は、学校教育及び社会教育の関係者などの中から委嘱されるとのことだが、障害者団体が入れるとしたら社会教育関係者ということになるのか。

（則武社会教育担当参事）

第4条第3項は文科省で示した標準的な言い方を参酌した表現になっております。障害者団体が入る余地は十分あると考えます。

※ 富田委員長の採決により、委員全員が賛成し原案どおり可決された。

【 傍聴者途中退室 午後4時10分 】

8 協議事項

- 所沢市教育委員会の事務事業に関する点検評価報告書の変更案について資料に則り、岸教育総務課主幹兼教育企画室長から説明がなされた。以下、質疑。

(守谷委員長職務代理者)

この報告書のメインである10ページから50ページまでは、イメージからすると文字だらけの印象があるが。

(岸教育総務課主幹)

これまでの評価表は、平成24年度の評価表で言えば下半分の部分、つまり単年度実施事業の評価のみでしたが、今後は、長期計画である教育振興基本計画に合わせて施策レベルの評価も行うこととなりますので、情報量が増えます。また、市民の分かりやすさも考慮して、施策ごとに1ページで完結させようとも考えました。このことから、1ページあたりのボリュームが多くなっております。今後、各所管課で内容を記載することになりますが、その情報量によって文字だけでなくイラストや写真などを、評価表の上半分に入れることも可能ではないかと考えます。

(守谷委員長職務代理者)

かなりのボリュームになるので、少しでもそうした工夫をしていただければ見やすくなると思う。

(岸教育総務課主幹)

承知いたしました。

(吉本委員)

点検評価報告書の発行部数、配布対象者、作成費用、著作権料などについて教えてほしい。

(岸教育総務課主幹)

著作権料は発生いたしません。作成費用につきましては、原稿作成から製本まで事務局職員が行いますので、紙代のみになります。報告書は、必要に応じて、学校教育・社会教育関係、市議会などの関係機関に配布しようと考えております。また、市のホームページにも掲載し、市民がダウンロードできるようにいたします。

(富田委員長)

評価表なので、有効性や必要性、方向性を太字にして強調し、そこに目が行くように配慮したほうが良いのではないかと。枠や文字を工夫すれば、活きてくるのではないかと。

(岸教育総務課主幹)

字体を変えたり太字にするなどの工夫をしていきたいと考えます。

(京谷委員)

これは1年ごとの評価になるのか。事業の中には、何年もかけて成果が出る場合もあると思うが、そういうものはどこかで点検評価されるのか。

(岸教育総務課主幹)

評価表の上半分が一定期間の評価や途中経過を記載する部分になり、下半分が1年ごとの評価、実績報告になります。

(富田委員長)

評価表の上半分「取り組み状況と成果」「課題と今後の方向性」と下半分の「実績報告」「方向性」は重複しないか。

(岸教育総務課主幹)

上半分につきましては、施策レベルの内容になりますので、下半分の個々の具体的な事業の内容が、部分的に上半分にも記載されることはあると思います。このことから、下半分の内容は、上半分に包含されるという形になります。

(富田委員長)

実際には各所管課の担当者が内容を書くことになるのだろうが、上半分と下半分が同じようなことにならないかが懸念されるが。

(岸教育総務課主幹)

確かに重複する部分もあるかとは思いますが、上半分につきましては長期計画である教育振興基本計画の施策レベルでの評価になりますので、長期的・全体的視点に立った表現になると考えられます。

(吉本委員)

評価される学識経験者の3名は、もう決まっているのか。

(岸教育総務課主幹)

平成24年度につきましては、まだ決まっておりません。今年度は、淑徳大学の菊池先生、秋草学園短期大学の川田先生、元小中学校長の浅野先生にお願いいたしました。

(守谷委員長職務代理者)

学識経験者のご意見の柱立ては、施策単位なのか。

(岸教育総務課主幹)

学識経験者からは、教育振興基本計画の基本目標を単位としてご意見をいただく予定です。

(富田委員長)

それでは、各委員から出された意見等を踏まえた対応をお願いしたい。

●平成24年度の教育課程について（継続協議）

資料に則り、江田学校教育部次長兼学校教育課長から説明がなされた。

以下、質疑。

(富田委員長)

それでは、前回の「授業時数の確保」「学校行事や体験的な学習など特色ある学校づくり」に引き続き、3点目の「指導と評価」について協議をお願いしたい。

(守谷委員長職務代理者)

小・中学校の違いや教科により事情は様々だとは思いますが、二学期制により半年単位で評価するのと、三学期制で4ヶ月ほどの期間で評価するのでは、どのような違いがあるか。

(江田学校教育部長)

長いスパンで見るとほうが良い面があります。小・中学校とも総合的な学習であったり、中学校の技術教科では、特に1月から3月にかけて卒業関係の行事などが多くあり、実際に月に数回しか授業がもてないことが多く、二学期制による10月から3月までの長いスパンでの評価のほうが、きめ細やかに見られると考えられます。

(平塚学校教育部長)

評価の方法が、従来の相対評価から絶対評価に変わっているため、より多くの材料があったほうが適切な評価に結びつくと考えられます。スパンが短い場合には、技術など教科によっては、学校行事等との関係で少ない材料で評価せざるを得ないということになります。

(吉本委員)

今の説明は、中学校の技術家庭科という特殊な教科の場合の例示だったが、小学校1・2年生の場合でも長期間での評価のほうがいいのか、それとももう少し短いスパンで見たほうがいいのか、難しいところだと思うが、いかがか。

(江田学校教育部長)

小学校では单元ごとに評価するのに対し、中学校では教科ごとの評価になります。そこが小学校と中学校で違う点です。

(佐藤教育長)

評価のあり方を、小学校の場合と中学校の場合について、もう少し詳しく説明する必要がある。例えば、夏季休業中の取り組みの工夫などについて具体的に話してほしい。

(江田学校教育部長)

美原中学校など夏休み前にも評価表を出している学校もあり、全般的には、各学校の工夫、改善により、保護者へお知らせしているところです。また、小学校の場合は、長期休業前に個人面談の機会を設けております。そこで成績面だけでなく、特に学校生活面についても、保護者と直に話をしております。

(平塚学校教育部長)

中学校の場合には、夏季休業中、あるいは夏季休業前に子どもたちが取り組んできた頑張りや課題について、二者面談や三者面談の機会を設け、生活面、学習面、進路面について話し合っております。通知表を出すのは学校長の判断ですので、補足的な資料を出す場合もありますし、中学校の場合には所沢市独自のステップアップ調査を活用し、生徒や保護者に対し、きめ細かなアドバイスをしているところです。二学期制ですと夏休みの使

い方として、学習につまづいている子どもの学習相談の機会として活かすなどして、秋の試験につなげるなどしております。また、高校生や大学生にも協力してもらいながら学習支援を行っております。

(富田委員長)

「指導と評価」については、概ね意見が出尽くしたと思うが、教育課程に関することについて何かあるか。

ところで、二学期制から三学期制に戻した事例が、県内や全国であるか。

(平塚学校教育部長)

平成23年度に二学期制から三学期制に戻した事例が、埼玉県内では本庄市、春日部市、深谷市の3市ございます。深谷市は、市町村合併により、学期制が混在することになるため、検討の結果、三学期制に統一したものです。春日部市は、中学校のうち1校のみが三学期制に戻しております。基本的には、教育課程の編成は、学校が主体となつて行くと法令等で決まっておりますので、そうした判断になったものと考えられます。本庄市ではPTAが中心となつて保護者に対しアンケートを実施し、8割くらいが三学期制を希望したようで、それを踏まえ検討した結果のようです。なお、所沢市におきましては、以前に行った意識調査では、そうした結果は出ておりません。

(京谷委員)

所沢市の場合は、足並みが揃うのか。所沢小学校長から、来年度も二学期制を継続する旨の通知があったと聞いているが、全ての学校が一斉に三学期制へ移行できるのか。

(平塚学校教育部長)

一部の学校で、学校だより等で保護者あて通知しているところがあることは承知しております。また、校長会や学び改善プロジェクト委員会において、学期制や教育課程について協議しておりますが、来年度以降、三学期制に移行するという話は、今のところ届いておりません。また、小学校と中学校で兄弟関係があったり、諸事情もあることから、校長会でも様々な点から検討しているところです。

(守谷委員長職務代理者)

意識調査の結果で、教職員の調査結果が芳しくないようだが、このことをどう考えるか。

(江田学校教育部次長)

芳しくないと考える教職員は半数ほどであると認識しております。

(平塚学校教育部長)

校長を通して、または教員から直接話を聞くこともありますが、当初、三学期制を良しとしていた教職員でも、実際に新しい教育課程になって、授業時数の確保が現行の二学期制でも厳しいなかで、三学期制へ移行するためには、別のところで授業時数を確保しなければならないという難しさが、徐々に理解されてきているようです。具体的には、放課後の部活動や生徒

会活動など様々な活動が難しくなること、土曜日に授業を実施した場合には、教職員の勤務の振替や塾の問題、各種団体との関係等が難しいことなどが現実問題として出てきます。

(吉本委員)

8年前に三学期制から二学期制へ移行したときは、全校一斉にできたと聞いている。また、ゆとり教育を見直していかなければならなくなってきたということも漏れ聞いているところである。そんな中で、二学期制、三学期制に固執するのではなく、もう少しフラットに検討されたほうが良いのではないかと思う。もし、二学期制が安定化してきているのであれば、逆に安定化していることの怖さみたいなものも考えていただいて、検討していただきたいと思う。

(平塚学校教育部長)

事務局としましては、学び改善プロジェクト委員会へ諮問しておりますので、その検討結果を2月の教育委員会会議で報告させていただき、委員の皆様にご協議いただこうと考えております。

(吉本委員)

2月の教育委員会会議では、校長会や学び改善プロジェクト委員会の結論が両方とも出ているということか。

(平塚学校教育部長)

学び改善プロジェクト委員会は、2月16日に行われる予定のため、翌日の教育委員会会議には、文書にまとめたものをお出しすることは難しいですが、校長会と合わせて教育委員会会議に間に合うように口頭で報告する予定です。

(富田委員長)

それでは、次回2月の教育委員会会議で引き続き協議することにしたい。

9 報告事項

- 所沢市教育委員会に対する請願について（教育総務課・学校教育課）
- 第65回成人のつどいについて（社会教育課）

(佐藤教育長)

私は富岡地区へ行った。学校区と行政区がずれているせいか、出席率は低かった。

(富田委員長)

私は新所沢東公民館へ行った。人数が少なかったせいか、私語をする者もなく、号令がなくともきちんと挨拶ができており、厳粛ですばらしい式典だった。気持ち良く行かせていただいた。

(京谷委員)

私は並木地区へ行った。去年は新所沢東公民館で私語が全く無かったが、今年の会場では多少私語が目立った。全体としては良かった。

(守谷委員長職務代理者)

私は柳瀬地区へ行った。参加人数と会場の大きさがマッチしていて、式典も粛々に行われた。集いでは、当時の生徒会役員が中心となってゲームなどを取り入れ、和やかな雰囲気であった。

(吉本委員)

私は山口地区へ行った。歴代の関係者の努力が伝えられている印象を受けた。民生委員さんなど年配の方々がとても慣れていて、地域全体で成人を祝ってあげようとする姿勢に感激した。年配の方の負担が大きいのを感じられた。

- 第10回所沢市伝統芸能発表会について（文化財保護課）
- 平成23年度学校給食展の開催について（保健給食課）
- インフルエンザについて（保健給食課）

10 その他

- ・教育委員会2月定例会：2月17日（金）午後1時30分～ 602会議室
- ・教育委員会3月定例会は、市議会の開催日程と調整のうえ決定する。

11 閉会 午後5時09分

※ 会議に先立ち、教育委員が新所沢複合施設第二期工事施設の視察を行った。